

歳書こそは図書館の切り札

1 書物に込められた願い 人はなぜ記録を残すのか

(1) 個人意思の介在：天道是か非か

司馬遷『史記』卷六十一 伯夷列傳

若至近世、操行不軌、專犯忌諱、而終身逸樂富厚、累世不絶。或擇地而蹈之、時然後出言、行不由徑、非公正不發憤、而遇禍災者、不可勝數也。余甚惑焉、儻所謂天道、是邪非邪。

→残そうとする人間の意思がなければ書物は残らない

(2) 国家意思の介在 1：正史の記録に込められた真実

①正史とは何か → 正しい歴史記録ではなく、正当性を示す歴史記録

中国：二十四史、日本：六国史

②正史はどのように作られるか (中国の場合)

- ・起居注・時政記→実録→国史→正史
- ・史官の中立性

『資治通鑑』卷一九六 貞観十六年四月壬子条

上謂諫議大夫褚遂良曰「卿猶知起居注、所書可得觀乎。」對曰「史官書人君言動、備記善惡、庶幾人君不敢為非、未聞自取而觀之也。」上曰「朕有不善、卿亦記之邪」對曰「臣職當載筆、不敢不記。」黃門侍郎劉洎曰「借使遂良不記、天下亦皆記之。」上曰「誠然。」

③二十四史のうち 1 / 3 が唐代前半期に作成されている不思議

1) 唐王室の出自問題 (唐王室 李氏とはどのような一族か)

公称：隴西の李氏、老子(李聃)の後裔

2) 皇位継承の正当性の問題

【隋】①文帝→②煬帝 【唐】①高祖→②太宗→③高宗・・・

(3) 国家意思の介在 2：焚書

①始皇帝の焚書 (B.C.213 年)

②『永樂大典』(永樂 6 (1408) 年) 22,877 卷・11,095 冊・目録 60 卷

③『四庫全書』(乾隆 46 (1781) 年) 經・史・子・集の分類、3,503 部 79,337 卷

(4) 社会的意思の介在

①唐・宋変革論

唐と宋の間に社会的、文化的に大きな断絶を認め、この間に大きな社会体制変革の波があったとする学説

②唐宋間での変化を図書に関わる点で眺めると

→写本の時代から版本の時代への転換点。現存する唐以前の文献史料は基本的に宋代に印刷されたもの。唐以前の文献で同時代に印刷されたものは現存しない。

→少なくとも出版時の取捨選択において宋人の歴史認識の影響を排除できない。

2. 情報を記録、発信、保存できるのは誰か

- ① 前近代：為政者、史官→一部の支配階級や知識階級
- ② 近代：公的機関、言論機関、一定の知識人
- ③ 現在：誰でも

一方で、記録を保存して後世に伝えられるのは古今東西、図書館、文書館、博物館に限られる。中でも最も古い歴史を有し、組織・方法論ともに体系を確立しているのは図書館以外にあり得ない。さらに、現在の図書館は、保存すべき情報を取捨選択できる権限まで有している。

3. 資料を後世に伝える必要性

- ① 歴史を残すため
 - ・どんな学問分野でも発展の軌跡を残す必要がある
 - ・人類のリスクマネジメント
- ② 「歴史を知ると寛容になる」

4. 図書館の目指す方向性

(1) 図書館サービスの意味の見直し

現行の図書館サービスは、利用者への情報提供という直接サービスにのみ焦点が当てられている。しかし、図書館が情報を保存し、その情報を公開していなければ利用という行為すらあり得ない。すなわち、蔵書(情報)の保存、充実、特色化、公開といった間接サービスと呼ばれていた部分の充実こそ、真の利用者サービスに繋がる。

(2) 具体的に何からはじめるか：東大経済学部資料室の例を交えて

- ① 設置根拠も含めた機関としての存立基盤の明確化
 - 【東大経】大学図書館、教員ポスト
- ② 機関の歴史に根ざした蔵書や組織の特徴の把握と特色化
 - 【東大経】東大が自前で取り組まねば保存されない情報は何か
 - 企業資料、官-企業-労働のトライアングル
 - 劣化する資料への対策の必要性

(3) 存立基盤の明確化と特色化の次にすべきこと

- ① 特色を生かすための証拠収集

- ・ 歴史的経緯に基づいた説明
- ・ 目的遂行に必要な時間、金額、労働力等の具体的な数値

② 決定した方向性のアピール方法

- ・ 利用者への丁寧な説明→図書館の常識は利用者の非常識
- ・ 間接サービスこそ利用者のことを考えたサービスであることのアピール

[例]1) カウンターでは、利用者の方々が資料を気持ちよく利用できるよう資料保存作業をしております。このため、カウンター対応が遅れる場合もありますが、どうかご理解ください。

2) 東大経済資料室の利用の手引き

(4) 直接サービス方法の見直し：誠実な直接サービスへ

- ・ 「できません」だけで済まない：理由の説明と代替方法の案内
- [例]劣化資料のため複写できません→代替物を作るか写真撮影など対処できる方法を考えるべき、少なくとも先送りしない姿勢を見せる。
- ・ OPAC だけが全てではない→ブラウジングの重要性、蔵書解題・解説
 - ・ インターネットの効果的利用 (Web サイト、ブログ、Twitter、RSS など)
→簡単に済ますこと＝利用者広報では無い。難しいことを難しいのだと解らせることも必要。

5. おわりに

- ・ 図書に限らず図書館の有する情報 (伝統、歴史も含む) は全て切り札
- ・ デジタル資料の重要性→デジタルか紙かの議論は不毛。どちらも重要
- ・ 専門性とは何か、専門家とは何か
 - 1) 自ら主張しないと専門家と認識されないのは専門家では無い。
 - 2) 自分の専門外のことについては適当な専門家を紹介できる能力のある人。
 - 3) 専門家を納得させるものと、専門外の人を納得させられる使い分けができる人。→図書館は自らを説明してきたか!
 - 4) 自分の専門分野以外に理解のある人。
- ・ モノへの理解の重要性

表 二十四史一覽

	書名	編纂者	備考
1	史記	(前漢) 司馬遷	原名：『太史公書』 三家注：(宋) 裴駟『史記集解』、(唐) 司馬貞『史記索隱』、 (唐) 張守節『史記正義』
2	漢書	(後漢) 班固	(唐) 顏師古 注
3	後漢書	(宋) 范曄	志は(東晋) 司馬彪『統漢書』 本紀・列伝・・・(唐) 李賢 注 「統漢志」・・・(梁) 劉昭 注
4	三国志	(晋) 陳寿	(宋) 裴松之 注
⑤	晋書	(唐) 房玄齡 他	(唐) 太宗御撰
6	宋書	(南齊) 沈約	一部欠失(『南史』で補填)
7	南齊書	(梁) 蕭子顯	
⑧	梁書	(唐) 姚思廉	
⑨	陳書	(唐) 姚思廉	
10	魏書	(北齊) 魏収	一部欠失(『北史』等で補填)
⑩	北齊書	(唐) 李百薬	欠失多し(『北史』等で補填)
⑪	周書	(唐) 令狐德棻 他	一部欠失(『北史』等で補填)
⑫	隋書	(唐) 魏徵、長孫無忌	志は長孫無忌等撰『五代史志』
⑬	南史	(唐) 李延寿	
⑭	北史	(唐) 李延寿	
16	くとうじょ 旧唐書	(後晋) 劉昫 他	一旦完本は散逸。明代に宋刊本を集めて復旧
17	新唐書	(北宋) 欧陽修、宋祁	
18	旧五代史	(北宋) 薛居正 他	散逸 現行本は『永樂大典』からの輯本
19	新五代史	(北宋) 欧陽修	
20	宋史	(元) 脱脱	
21	遼史	(元) 脱脱	
22	金史	(元) 脱脱	
23	元史	(明) 宋濂 他	
24	明史	(清) 張廷玉 他	